

# 佐渡米通信

# こめへる

2023年 7月号

発行日:2023年7月

編集人:佐渡農業協同組合 総務部総務課 駒形(葵)  
jasadosoumu02@snow.ocn.ne.jp

## 自然栽培除草研修会で 水田駆動除草機比較

6月初旬に自然栽培研究会で除草研修会が開催されました。乗用駆動型除草機のメーカーの方から説明と実演が行われました。無農薬無化学肥料栽培(無無栽培)では生育管理の中で雑草防除が大きな作業負担となっています。今年の春から除草機を導入した生産者の方々から使いやすさや除草・抑草効果、作業効率などについて話を聞きながら活発な情報交換が行われました。

引き合いの高まりとともに、JA佐渡では生物多様性農業の更なる進展のため、関係機関と連携しながら有機栽培研修会を実施するなど、相談がしやすい仕組みの整備を進めています。農家の方々の関心も高まっており、今年度から栽培を始める方もいます。



除草機が通った後の株間と稲の状態を確認する生産者と関係者たち

## 佐渡の米農家さんにインタビュー

新穂地区の土屋昌志さんと光子さんご夫婦にインタビューをさせていただきました。新穂地区は佐渡トキ保護センターと野生復帰ステーションがあり野生のトキにも会える機会が多い地域です。土屋さんご夫婦の耕作面積は12haで佐渡市認証米の「朱鷺と暮らす郷」コシヒカリとこしいぶきを生産されています。

1等米比率90%以上で品質の高いお米作りをご夫婦で掲げられており、R3年産では1等米比率がほぼ100%だったことを嬉しそうにお話してくださいました。特に健苗育成に力を入れておられるそうです。苗が同じ背丈になるよう均一に育てるのは難しく、様々な条件で生育具合に影響が出るため、育苗ハウスのビニル素材にまで気を配られていました。光子さんは、苗が活着するまでは気が抜けず、心配しすぎて夢にまで出てきたと笑いながら話されていました。

昌志さんの1日は、空が白やんでくる頃、田んぼの見回りをすることから始まります。畦の草に朝露がかかり、空気が澄んだ静寂の中、田んぼの水面に映る金北山が美しく大好きだと嬉しそうに話されていました。田んぼの水の状態の確認は、必ず田んぼをぐるっと一周するそうです。その時も 잠시自然の美しさで心を奪われる、とお話して下さいました。

土屋さんご夫婦の目標はいつまでも二人で和気あいあいと農業を続けることだそうです。道具を大切に使うこと、自然が好きなこと、土屋さんご夫婦は大切にされていることが一緒だからこそ、今のスタイルの農業が成り立ち、これからもずっと楽しんで歩まれるのだと思いました。



まっすぐ植えられた苗の様子に「体内GPS搭載です」と笑顔いっぱい土屋ご夫妻



新穂地区



インタビュー終盤に近くの田んぼに飛来してきたトキたち

## 高品質に仕上げるための中干し

### 生きものたちはお引越し

田んぼの生きものたちは水切りした溝に流れた水と供に江に向かって移動します。



中干しをするため溝切機を使っている様子



溝切後の溝には水が流れて水が抜けていく田んぼ

温湯消毒 春耕転 苗づくり 田植え 水管理 中干し 穂肥 稲刈り 秋耕転 ふゆみずたんぼ



facebook



instagram



JASADOTANBO